

感動一点の場

『無題』

1970 年 小川原 脩 画



日が短くなってゆくこの季節、夕闇もずいぶん早く訪れるようになった。

濃い赤の地面を背景に、犬の形が浮かび上がり、周りには影が伸びている。少し離れて、深い青の中に数件の家が見える。鮮やかな黄色の小さな屋根は、どことなく、家の中の明かりや暖かさを思わせる。薄暗くなった夕暮れに、家路を辿る中で出会う色彩だ。

犬の赤茶色の毛は、実は色鮮やかな色が重なり、街の明かりを映しているのかもしれない。シルエットだけで顔も、表情も、描写されていない。しかし、高く持ち上げくると巻いた尻尾、頭をほんの少し上げた仕草に愛嬌を感じる。家族を出迎えているのだろうか。もの悲しさから解放され、優しい時間が始まる。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

—旭ヶ丘三十三観音像—

ふるさと探訪

426 回

木漏れ日の中にひっそりと立ち並ぶ、苔むした像。旭ヶ丘公園の遊歩道を歩くと必ず目につくであろうこの像は、「旭ヶ丘三十三観音」と呼ばれている。

観音像がなぜここに建てられているのかというと、元は本州にさかのぼる。昔から和歌山、奈良、大阪などで「西国三十三所」という、33カ所の寺院を巡って信仰を深めるための巡礼が行われていた。しかし、ここは海に隔てられた北海道。巡礼したくとも行けない人々が多くいた。そこで、大正12年に大佛寺開祖の斎藤忍随師を中心に、多くの人々の協力のもと建てられたのが、旭ヶ丘三十三観音だった。



▲ 22 番目の観音像

観音像は1～33番までの数字が刻まれているものと、数字の刻まれていない番外の6体があり、合わせて39体が点在している。1番は大佛寺の境内にあり、それ以外は公園内に建てられている。多くは道沿いに並んでいて見つけやすいが、22番の観音像は遊歩道から少し外れた茂みの中にあり、少し見つけにくい。

秋が深まり、草木の葉が枯れ落ちて見晴らしが良くなるこれからの季節、22番目の観音像を探しに出かけてみてはいかがだろう。

文：小田桐 亮（俱知安風土館 学芸員）

第4回 ふるさと探訪（観察会）「アンヌプリ山麓の二つの高層湿原とジャコ川の紅葉を歩く」

ニセコアンヌプリの中腹には趣の異なった2つの高層湿原があります。錦色に輝く2つの高層湿原と、冷気にさらされ、鮮やかになるジャコ川の紅葉を歩きます。

講師：古市 竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰）

日時：10月14日(日) 8時30分～15時 集合：俱知安風土館

定員：先着12名（現地まで公用車で向かいます）

参加費：無料 申込方法 俱知安風土館までお電話ください（☎22－6631）

展覧会のお知らせ

■常設展示

小川原脩展 「小川原脩 遙かなるイマージュⅡ」

「遙かなるイマージュ」は1988年に北海道立近代美術館において開催された大規模な回顧展の副題＜対話・沈黙―遙かなるイマージュ＞より抜粋した文言で、小川原脩の創作姿勢を想起させるフレーズです。Ⅰ期に続き、小川原脩全年代の代表的作品を網羅しながらコンパクトに紹介します。

会 期：開催中～平成31年1月20日(日)

■企画展示

第60回記念 麓彩会展

1958（昭和33）年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により設立された「麓彩会」。60回を迎える記念展は、大作が揃い、第1展示室で開催します。

会 期：開催中～12月16日(日)



アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

アート探訪〈みて・きいて〉「東京国立博物館」

日 時：10月6日(土)14時～16時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■アート・シネマ館

「ターナー、光に愛を求めて」2014年/150分/イギリス・ドイツ・フランス

日 時：①10月13日(土)14時～15時30分

②10月20日(土)14時～15時30分

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■アート・トーク

「マネ 落選した名画」

日 時：10月27日(土)14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■造形活動ワークショップ

「描いて、刷り取る〈木版リトグラフ〉体験」

木の板を使った平版画「木版リトグラフ」に挑戦します。クレヨンのような画材で自由に絵を描いて版を作る、比較的短時間で制作ができる版画技法です。この機会に版画の世界に触れてみませんか。

日 時：11月17日(土)10時～16時

講 師：府川誠さん（版画家） 会 場：俱知安風土館研修室

対 象：一般（中学生以上） 定 員：15名（要申込） 参加料：無料

申込み：10月15日(月)より美術館に来館または電話 ※定員になり次第終了

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観 覧 料：一 般 500円（400円）

高 校 生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

俱知安風土館 ☎22-6631

観 覧 料：一 般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
10月の休館日 毎週火曜日

恐るべし 後志の美術

今年も「麓彩会」の季節を迎えています。第1回展を公民館で開催したのが1958年ですから、何と今回が60回目。かつては、小川原脩をはじめ後志在住の美術家たちが中心でしたが、今や出品者の多くは道内各地へと広がり、全道レベルの美術を紹介できる貴重な機会となっています。

一方、後志と縁の深い美術家を紹介する「くっちゃんART」は10回を数え、こちらも定着した感があります。この地域に関わる2つの展覧会の出品者を併せると、実に30数名という驚くべき数字になります。美術館がこうした活発な美術活動に関われるのは幸せなこと。それだけに、少しでも多くの皆さまに楽しく味わって欲しい、と改めて思うのです。

館 長 柴 勤